

## 11月に文庫に入った子どもの本

### 子どもの本・絵本

『ツリーハウス』(ロナルド・トルマン/マライヤ・トルマン作 西村書店) 『なみだでくず

れた万里の長城』(唐亜明文 蔡皋絵 岩波書店)

『おたんじょうび、おことわり』(ボニー・ベッカーぶん ケイデイ・M・デントンえ 岩崎書店)

『青い花のじゅうたんーテキサス州のむかしばなし』(トミー・デパオラ再話・絵 評論社) 『子

そだてゆうれい』(桜井信夫ぶん 若山憲え ほるぷ出版)

### 1年生読み物

『はるかちゃんとかなたくんのしりとさんぽ』(石津ちひろ作 田代知子絵 くもん出版)

### 寄贈本

『どうぶつのおてつだい』『うさぎのおくりもの』

(ビーゲン セン作 永井郁子絵 汐文社)※著者寄贈 『チェブラーシュカとなかまたち』(ウスペ

ンスキー作 いじゅういんとしたか訳 新読書社)

♥ありがとうございました。ほかに、広瀬さんからたくさん、いただいています。♥

### 羽黒山境内五重塔(編集失敗)



银山温泉のある旅館でみつけた2階屋根下の日くある絵↑

## 11月に文庫に入った大人の本

### 大人の本・新刊

『往復書簡』(湊かなえ著 幻冬舎)※映画「北のカナリアたち」の原案 『猫ダンジョン荒神』(笹野頼

子著 集英社) 『無罪』(スコット・トゥロー著 二宮馨訳 文芸春秋)※前作・歴史的名作『推定無罪』

も在庫 『ならずものがやってくる』(ジェニファー・イーガン著)※本書でピューリッツア賞、全米

批評家協会賞など受賞 『ツナグ』(辻村深月著 新潮文庫)※request 『ダ

ーウィン家の人々』(グウェン・ラヴェラ著 山内玲子訳 岩波現代文庫)

『月の輪草子』(瀬戸内寂聴著 講談社) 『人生とは勇気』(児玉清著 集英社) 『東と西一横光利一

の旅愁』(関川夏央著 講談社)

『月の名前』(高橋順子著 佐藤英明写真 デコ)

『くらしのこよみー72の季節と句をたのしむ歳時記』(うつくしいくらしかた研究所編集 平凡社)

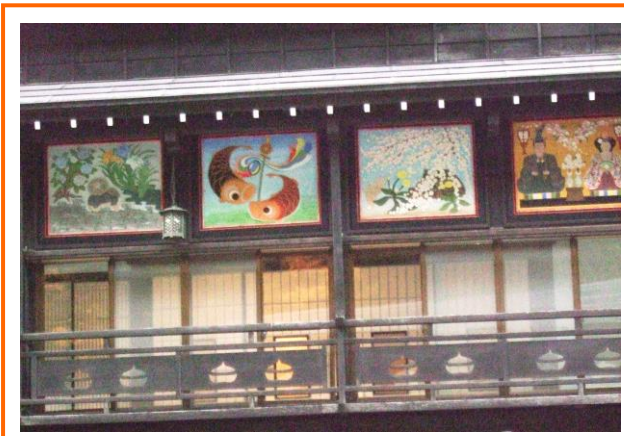
### 寄贈本・有難うございます♥

『夜桜』(佐伯泰英著 光文社文庫) 『じんせいとは

ゆうき春霞ノ乱』(佐伯泰英著 双葉文庫) 『散斬』(佐伯泰英著 講談社文庫) 『ぼくらはみんな生

きているー18歳ですべての記憶をなくした青年の手記』(坪倉優介著 幻冬舎) 『大震災自閉っこ家族

のサバイバル』(高橋みかわ編著 ぶどう社) 『書店の棚 本の気配』(佐野衛著 亜紀書房)



## ♪ 秋の夜長のはなし会に参加して♪

第1部、第2部と「人の気持ち」がテーマだったように思いました。みなさんの声のトーンがやわらかく、すうっと耳から入り、心で聞くことができました。一つ一つのおはなしの情景がうかび、私の気持ちの中でまとまってくる感覚を楽しませてもらいました。

おはなしの内容はとても深いものなのに、やさしく心に届けてくれるこの時間は、とてもぜいたくなものでした。

「みずたまり」のキジになってしまった親が最後に子供に食べられてしまっても、それでも満足している親の心もように心打たれ、「小僧の神様」のすくい神のはずが、親切心でした行動なのに、その気持ちをくやんだり、又持ち切れなくなった様子など、人の気持ちの複雑さなど、しみじみと味わいました。

ありがとうございました。また次回のおはなし会を心待ちにしています。(Y. U.)

## 東北の旅(11/2~5)・・・

伊豆行き合間に、東北の語り部のお話を聞きがてら友人と山形を旅しました。◆まずは、银山温泉(川をはさんでレトロな旅館の並んだ)では、「おしん」の撮影場所を聞き、古い造りが気に入って嫁いだカナダ人?の女性が、建て直して反対して、子どもを連れて故国へ帰ってしまった話を聞きました。◆目的地の山寺では、ふうふう言いながら1000余段の石段を上り、山寺芭蕉記念館で、東北の語り部(青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島)によるお話を聴きました。わからない方もありましたが、心に熱く届きました。また、被災された方の話は痛飲でした。圧巻は、山寺の夜景でした。ライトアップそのもの以上に、蝋燭の明かりだけの根本中堂での住職さんのお話や、門前町のお店やさんのもと・看板娘たち♥の昔語りや、この世の境に連れて行ってくれるような雰囲気でした。◆そのあと、羽黒山に詣でました(山形汽車の旅は時間がかかる)。頂上までバスで、それから2000数百段を下りました。2度目でしたが、心洗われました。◆最後の日、鶴岡市内をサイクリング。藤沢周平記念館を楽しみにしていましたが、月曜とて休館日。雪を被った鳥海山と月山が青空の下、遠くにくっきりと輝いていました。◆残念ながら本当の紅葉狩はあと1.2週間さきとのこと。(さら)

# 沙羅の樹文庫だより

**文庫あれこれ**◆母屋の玄関脇のみみじがようやく色づき始め、文庫の姫シャラは葉を落としました。朝焼けに大島の全景が美しく浮きあがっています。みなさんにとって見慣れた風景でしょうが、冬が近づき木々が葉を落とすと、眼前になだらかな姿をあらわす大島に殊に惹かれます。そして朝の光は文庫の隅々までも入り込んできます。◆今回も西村のつれづれを、したためます。いつも大体ひと月に1度の伊豆通いですが、10月末から11月初旬にかけて2度やってきました。◆ひとつは、文庫のMちゃんや、T君兄妹のバレエの発表会を観に(みんな可愛かった♥)。本当に久しぶりに伊東の町を歩きました。日曜とて?人の姿はなく、昔は(娘時代)あそこの魚屋さんでお刺身してもらって、とか、海に出る路地を覗いたり…。◆もうひとつは、スタッフNさんとお仲間の歌の花束コンサートを聴きに。Nさんを含めた3人の子守唄、会員ご夫婦いっしょの歌、男性ひとりの歌声、プロ顔負けの歌唱力のある女性…、ひとりアカペラ?で歌うことは好きでも、みなさんのように素晴らしい発声ではとてもとても。なじんだ歌曲が多く、とても楽しいひとときでした。その上、文庫でお馴染みのY先生の独唱やN先生のピアノが聴けて大満足。◆話変わって、みなさんは、母校のクラス会に参加していますか?私は3度目の小学校を卒業したのですが、そのクラス会が、クラスメイトのお寺さんで毎年この時季、開かれます。2年に1度、1泊旅行をします。数年前には、熱海から足を伸ばし、みんなで文庫に来てくれました。今回は箱根。先週の日月で、日曜は雨に祟られましたが、翌日曜はよいお天気で、霧の晴れた大涌谷、ポーラ美術館、彫刻の森、を散策堪能しました。何回も来ているのに、幼い頃ともに育った仲間といっしょだと、また趣があり、いっさいのしがらみを飛び越えてみんな同じときを過ごせる凄さを味わいました。7年長生きする?黒いたまごを食べて、ともかく5年先を考えて、豊かに元気に生きて行こうね、と語り合いました。◆歌はいいなあ、と思います。誰もが歌えて、聞けて心を捕らえる。でもお話聴くのもよいですよ!先月のおはなし会を聴いた会員さんが感想を寄せてくれました。◆さあ、この日曜は読書会です。本を肴におしゃべりませんか♥この催しはスタッフ主催です。◆少しく寒くなりました。お風邪召しませぬよう。

(西村)

## ホットニュース♥

◆会員の仲村さんのご主人(鍛金家)が日展の栄えある賞を受けられ、

岡田幸樹くん父子が創作お料理コンテスト 3位入賞◆  
(伊豆新聞紙面より)

### ◆2012・文庫の後半の催し物◆

#### ◆昼下がりのひととき読書会◆

好きな本についておしゃべりしましょう会 no.2

11月18日(日) 午後3:00~5:00

#### ★★★クリスマスお楽しみ会★★★

12月16日(日) 午前10:30~12:00

フルート演奏: 内山洋子さん

&伊藤楓音・颯岳姉弟

おはなし: 片岡晴哉くん

そして

#### ◆楽しいプレゼント交換・おやつ◆

参加者は300円程度のプレゼントをご用意ください。

### ◆◆今後の開館スケジュール◆◆

◆11月は通常17日(土)、18日(日)

◆12月は通常15日(土)、16日(日)

◆2013年1月は通常19日(土)、20日(日)

◆2月は通常16日(土)、17日(日)

◆3月は通常16日(土)、17日(日)

◆4月は通常20日(土)、21日(日)

※文庫の時間: 土曜日は午後2時~5時、

日曜日は午前10時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

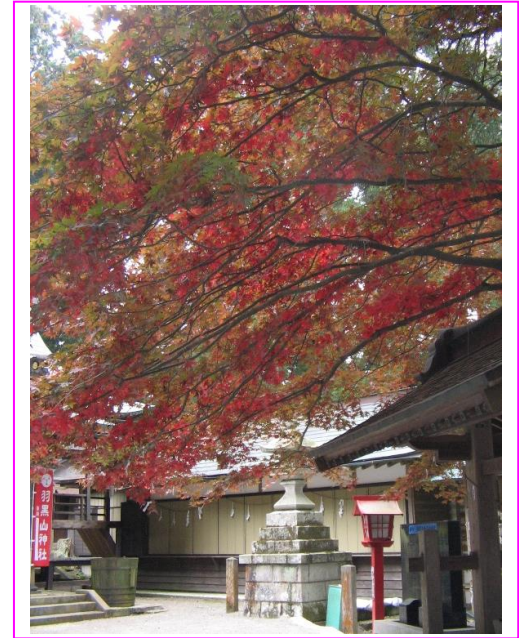
#### 《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

おはなし・沙羅の勉強会は

毎月第3土曜 11:00~13:00

◆伊豆での楽しい過ごし方、ホットニュースをぜひ皆さんに寄稿してください

連絡先 沙羅の樹文庫 電話: 0557-51-3737



出羽三山神社の紅葉

### 芭蕉 二句

閑さや 岩にしみ入る 蟬の声

山寺・立石寺にて

涼しさや ほの三日月の 羽黒山

羽黒山中腹から月山を望む辺りで

♪ 山形の旅は、はからずも奥の細道を辿っていました。芭蕉の旅は夏だったようですが☆

## 11月に読んだ本についての感想

2012年11月16日 By 森林浴

30「幻」の (ポプラ社の「100年文庫」100冊から)  
川端康成「白い満月」 著者の26歳のときの作。温泉地の別荘を借りて静養中の、病気で神経が苛立っている男の周りに、身の回りを世話する若い女中（これが不思議な靈感のある娘）がいて、遠くには妹2人がいる。この2人の妹はどちらも主人公も含めて共通の母親の不倫で生まれた（つまり一家3人の兄・姉・妹の父親は皆違う）という疑いが濃厚。妹は姉の愛人を押し付けられて結婚しているが、妹が姉のからんでいるらしい別の男の出現で生じた事件を契機に突然自殺、男は心理的に参るが、最期に女中の娘を愛するようになることを暗示しつつ小説は終わる。

『評伝ナンシー関 「心に一人のナンシーを」』 横田 増生著 2012年8月第4版

ナンシー関については以前からこの名前をあちこちでチラッと見て気になっていた。今回文庫で買っていただいて早速読了。読みやすい良くてきた本で面白かった。ナンシーは凄い人だったのだ。こういうサブカルチャーといわれる世界をあまり知らなかったのだけど、消しゴム版画と TV 批評で一世を風靡した、一種の天才とも言える女性。一日中 TV ばかり見ている、ぶくぶく太っていて、ヘビースモーカーで大酒呑み、とくれば短命も致し方ないか、39歳で死んだ。作家宮部みゆきなどナンシーのファンは沢山いたらしく、今もいる。

♥著書が10冊以上ある人でした! (付・さら)

『光媒の花』 道尾 秀介著 集英社刊 2010年3月第1版

以前、道尾秀介という人の文章の切れ端を読んで、いい文章だ、なかなかの作家かもしれないとは思っていたが、その期待は報われた。この小説は6章に分かれているが、各章の物語が鎖のように次々と繋がっていて、最期の話が始めの話に繋がるいわゆる

第1章で父親の浮気相手の女を殺し、そしらぬ顔で逃げ延びている男が、最期の第6章でまた出てくる。植物の花が巧みに按配されていて全体のストーリーが廻ってゆく仕組みが凝っている。

『日本人は何を考えてきたのか 明治編—文明の扉を開く』 NHK取材班編著 NHK出版刊 2012年6月第1版

大震災—3.11—後、日本は何処にゆくのか—という問いに答えて始まったNHKの啓蒙シリーズの第1回(明治編)。これはNHKのEテレで放送済みのものをベースに資料を補充して作られたらしい。だから本ではあるが、どことなくテレビ風である。第1章は福沢諭吉と中江兆民、第2章は東北で始まった自由民権の思想と行動、第3章は森と水に生きる一田中正造と南方熊楠、第4章が非戦と平等を求めて—幸徳秋水と堺利彦。読み易い良くてきた本だが、なにぶんテレビがベースなので、問題の掘り下げはすこし物足りないところはある。

『原発の、その先へ—ミツバチ革命が始まる』 鎌仲 ひとみ著 集英社刊 2012年7月第1版

本年、赤沢のコミセンで原発批判の映画があるというので、観に行きましたが、そこで映画会をプロモートしている中山千夏さん(現在伊東に住んでいる)と知り合い、少し立ち話をしました。中山さんがバックアップしているこの本の著者の鎌仲ひとみ氏は、イラクで核による被曝(被爆ではない)の問題に気がついて、2003年に「ヒバクシャ 世界の終わりに」を、2006年に「六ヶ所村ラプソディー」、2010年に「ミツバチの羽音と地球の回転」という核の被曝をめぐる三部作のドキュメンタリー映画を制作したのです。当時は原発に対する問題意識が一般に弱くて、映画はなかなか世の注目を集めることが困難な状況でしたが、2011年3月に東日本大震災が起き、現実には大量の放射能が放出されて被曝の問題が発生し、これらの映画が大きく注目されるようになったのです。著者はこの本で反原発には女性・母親が中心になるべきと訴えています。



『夫婦は死ぬまで喧嘩するがよし』 三浦朱門著 光文社刊 1993年9月第1版

本の題名どおり夫婦の真実をコミカルに裁断した、いわば夫婦喧嘩処理バイブル。かつて東京の地下鉄の駅で三浦朱門・曾野綾子夫妻を見かけたことを思い出した。おそらく近くのホテルか何かでの結婚式か何かにそろって出席するところだったのではないかと。二人とも充実して光り輝いていて、この2人だとぱっと判った。しかしお二人は並んでは歩かない。数メートル離れて歩いているのだが、とってやほりペアであることが丸見えの歩き方だった。これぞ古夫婦の連れ立ちの理想ポジションなり、というべきか。

## こどものページ

★あたらしくでた本は、ぶんこだよりのほうにのっています。★

広瀬恒子さんからたくさんいただきました。今回配架するものです。書名と出版社のみ記します。①

☆**小型幼児絵本**：『コトコトでんしゃ』（アリス館）  
『でんしゃ』（金の星社） 『やさしいたべものえほん1』『くだものーたべものえほん2』『ぶかぶか』（ポプラ社） 『さんさんさんかく』（童心社） 『まるさんかく ぞう』（文溪堂） 『かにこちゃん』（くもん出版） 『しっこっこーできるよできる1』『タンタンのぼうし』（偕成社）

☆**日本の絵本**：『けえろがいけ』（スピカ） 『よくばりすぎたねこ』（PHP 研究所） 『あめはどうしてふるの』『グンカンドリ・アウダ』『まだらのおにろく』（金の星社） 『だんまり』（アリス館） 『サントのおくさんミセスクロース』（佼成出版社） 『麦ほめに帰ります』（新日本出版社） 『てんりゅう』（岩崎書店） 『つんつくせんせいとくまのゆめ』（フレーベル館） 『ゆきのひのころわん』（ひさかたチャイルド） 『さんざんまたせてごめんなさい』『きつねとごんろく』『あかいとり』『ゆきのよる』（童心社） 『みなまたの木』（創英社）

☆**海外の絵本**：『ちゃぼのパンタム』（童話館出版） 『いっしょにきしゃにのせてって!』（瑞雲舎） 『ねこだけどライオン』（セーラー出版） 『女とロルと8人の子どもたち』（偕成社） 『トル坊や』（不明） 『ウィリーはとくべつ』（紀伊国屋書店） 『リディアのガーデニング』（アスラン書房） 『おばけのバーバパパ』（偕成社） 『くまのアーネストおじさん ふたりのおきゃくさま』（ブックローン出版） 『いまはあき』（あすなる書房）



☆**昔話えほん**：『ふうふうぼんぼんぼん』（第一法規） 『いっすんぼうし』（ポプラ社）

☆**科学絵本**：『えほんをつくる』『子どもたちの昭和史』（大月書店） 『日本の川 たまがわ』（偕成社） 『しごとば』（ブロンズ新社） 『冒険!発見 大迷路 時空列車クロノス』（ポプラ社） 『描かれた戦い』（小峰書店） 『わくわくしずおか地図えほん』（静岡新聞社）



☆**読み物**：『じろはったん』（森はな作 ポプラ社文庫） 『きつねのクリーニングや』（三田村信行作 金の星社） 『のんびり転校生事件』（後藤竜二作 新日本出版社） 『わたしがちいさかったときに』（長田新編 童心社） ※「原爆の子」ほかより 『吾妻の白サル神』（戸川幸夫作） 『ささやき貝の秘密』（ヒュー・ロフティング作山下明生訳 岩波少年文庫）



☆**紙芝居**：

『おばけのゆきがっせん』『ろくろくびのおかあさん』『にゅうどう ぼぼーん』『ひっぱりぬまのかっぱ』『ちょうちんおばけ』『てんぐのかくれみの』（以上、ひゅーどろどろおばけセット 童心社）

『はらぺこきょうりゅうスピノ』『きつねのまくら』『アネッタ、すべった!』『くじらやま』『はえとりぐものはっちゃん』（以上、ともだちだいすきシリーズ 童心社）

『モグラのおかあさん』『きかんしゃ シュッシュ』『まってるの だあれ』『よもぎだんごべったん』『びっくりサラダ』（以上、おひさまこんにちはシリーズ 童心社）



まんなかにいるのは、やまぶし(山伏)さんです。神さまのおしえをしゅぎょうしている人です。みえにくいけど、あたまにかぶっているぼうしは、てんぐがかぶっているのとおなじです。それから、あしには、たかいげたをはいています。はが1ぼんしかありません。(やまがた・はごろやま・羽根三山じんじやにて)